



われわれ産科婦人科医は基本的な産婦人科手術手技をマスターし、臨床上直面する問題を外科的に解決する能力や、術中の迅速適確な判断力が要求される。そのため、今までにも多くの手術書が世に出ており、個人的にも幾冊か手元においているが、総じて参考資料や図説が大部分を占め、いずれも産科婦人科手術学の成書としては一長一短があるような印象が受けられる。

本書は産科婦人科の手術における欧米のエキスパート66人が専門の分野を執筆しており、実に1,150の明瞭なイラストを含む1,200頁から成るバランスのとれた立派な手術書である。全体を11から成るPartと73のchapterより構成しているが、いずれの項目もアトラクティブであり、疾患毎に最も適切な手術法が選択できる能力や、その判断力が十分に養えるよう気が配られている。

産科婦人科の手術学の歴史をはじめ、骨盤内の解剖、生理、倫理についても十分に記載されていると共に、手術の原理、術中の偶発事故に対する処置なども含め、比較的新しい手術手技も豊富に盛り込まれている。実に読み応えのある手術書といえる。

京都府立医科大学産婦人科講師 山本 宝

研修コーナーに会員皆様の声をお寄せ下さい。
「今月の研修テーマ」に対する質問や、テーマの要望、執筆者の推薦など何でも結構です。
また推薦図書や書評、エッセイなども歓迎いたします。下記の宛先にお送り下さい。

宛 先：〒162 東京都新宿区市ヶ谷砂土原町1-1
保健会館別館内
日本産科婦人科学会
研修コーナー編集係